

画像符号化・映像メディア処理論文特集の発行にあたって

画像符号化・映像メディア処理論文特集編集委員会

委員長 藤井 俊彰



本特集は、本会画像工学研究専門委員会が毎年主催する画像符号化シンポジウム（PCSJ）、及び映像メディア処理シンポジウム（IMPS）と連動して企画されている。PCSJ/IMPSは、画像符号化・映像メディア処理分野の国内の専門家が一堂に会し、3日間泊まり込みで研究発表と意見交換を行う場として定着しており、毎回200名を超える参加者により熱い議論が行われている。「画像符号化・映像メディア処理」と題した特集は、そのPCSJ/IMPSで発表された研究成果を発展させたもの、並びに当該分野に関連した研究の特集として、2007年度の7月号にレター特集として発足し、2014年の8回目からはフルペーパーも投稿可能となっている。会議の予稿を英文で書く発表が増えてきたこともあって、今回より英文誌（IEICE Trans. Inf. & Syst., D）と同時発行の特集を企画することとなった。

今回はレター8編、フルペーパー3編の投稿があり、厳正な査読の結果、レター6編、フルペーパー1編の論文を採録することとなった。採録された論文の分野を見ると、画像符号化に関するものが4編（内、フルペーパー1編）、映像メディア処理に関するものが3編となっている。画像符号化の分野においては、H.265/HEVCの枠組みの中で工夫を重ねて符号化効率を上げていく地道な研究が続けられている一方で、射影変換や物体追跡などのコンピュータビジョンの手法を画像符号化に応用し、HEVCの枠組みに組み込むことによ

って大きなゲインを得るといったチャレンジングな研究も見られる。これらの技術が日本発の技術として国際標準化に貢献できることを期待したい。他方の映像メディア処理の分野においては、画像復元、補間・強調処理、視差推定といったメディア処理の重要テーマに関するものが採録となっている。両分野とも先進的な内容の論文がそろっているので、ぜひご一読頂きたい。

最後に、本特集を編集するにあたり、厳しいスケジュールの中で丁寧な査読をして下さった査読委員の方々、及び編集作業に携わって下さった編集委員の方々に厚くお礼申し上げます。特に、今回から開始した英文誌連動企画において大変な編集作業をこなして頂いた編集幹事の方々、そして本企画をサポート頂いた和文論文誌D編集委員会の関係者の方々に感謝の意を表したい。

藤井 俊彰（正員：シニア会員） 名古屋大学大学院工学研究科教授。1990年東京大学工学部電子工学科卒。1995年同大学院博士課程修了。博士（工学）。同年、名古屋大学大学院工学研究科電子情報学専攻助手。2003年、同助教授。2008年～2010年東京工業大学大学院理工学研究科准教授。2012年より現職。2011年～2013年映像メディア処理シンポジウム実行委員長。2013年～2014年電子情報通信学会画像工学研究専門委員会委員長。主に3次元映像通信、3次元映像システム・映像処理に関する研究に従事。映像情報メディア学会、情報処理学会、IEEE各会員。

画像符号化・映像メディア処理論文特集編集委員会

委員	長 事 員	藤井俊彰	市ヶ谷敦郎	河村圭一	久保田彰	松尾康孝
		小野峻佑	関口俊一	高橋桂太	筒口裕介	
委		浜本隆之	坂東幸浩	長谷川まどか	亀田裕介	
員		金井謙治	中條健			